

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立東住吉総合高等学校 全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現
評価指標	○希望進路実現率の向上 ○四年制大学進学者数の増加 ○資格取得者数の増加
計画名	「TRY! ^{ひがそう} 東総プロジェクト」 ～ To Realize Your dream ～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 確かな学力の育成</p> <p>(1) 総合学科の特長を生かした実業教育・キャリア教育を推進し、3年間の学びで総合的な学力を育てる。</p> <p>* 平成31年度に進路未決定率を5%以下に、大学進学者数50人以上をめざす。</p> <p>(3) 「魅力ある授業づくり」をめざして、授業改善に組織的に取り組む。</p> <p>* 学校教育自己診断の「学習に関する」項目の生徒評価の肯定率（H28年度 64.7%）を毎年3%ずつ引き上げ、平成31年には70%以上にする。</p>
事業目標	<p>「TRY ルーム」の創設（ To Realize Your dream ルーム ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校の平成28年度の進路未決定率は9.7%と総合学科に改編されて、初めて10%を下回った。現在、授業でほとんど使われていない「社会科教室」を「TRY ルーム」として整備し、グループワーク学習を充実させ、生徒の「言葉と感情のコミュニケーション能力」を育成することで、本校のキャリア教育をより進化させる。「産業社会と人間」や学校設定科目等の授業において参加型授業を充実させる。もって、平成28年度の進路決定率90.3%を平成31年度には100%にする。 ・ 平成28年度の本校の「学習に関する」項目の生徒の肯定的評価は、64.7%。「TRY ルーム」を「アクティブラーニング」の拠点とし、「ICTを活用した授業」を推し進め、「アクティブラーニングの全体化」を図り、教員の授業力を向上させる。もって、生徒の肯定的評価を毎年5%ずつ引き上げ、平成31年度には80%以上にする。 ・ 多様な進路実現の成功例として、平成30年5月に実施される全国総合学科校長会総会で、全国の総合学科に発信する。
整備した 設備・物品	<p>ワークテーブル21、チェア42、講演台1、ACボード2、インターフェイスボックス2、超短焦点液晶プロジェクター2、ノートPC1、タブレット端末1、タブレット充電保管庫1、壁面ホワイトボード2、床タイルカーペット貼り1、HDM 受信機、送信機各1、AV 機器収納ラック1</p>

取組みの 主担・実施者	主担：「TRY ^{ひがそう} 東総！」プロジェクトチーム 取組の実施者：各系列長、各教科主任を中心に全教員で取り組む
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業における主体的・対話的な学習やキャリア教育の学習会では、ワークテーブル、チェアを自在に組み合わせ、与えられた課題や議論する人数に応じてチェアやテーブルの配置を変化させ、グループワークを行った。 ・ 超短焦点液晶プロジェクターから壁面ホワイトボードに映し出された映像やプレゼンテーションソフトの活用により、主体的な学習を行い、生徒への知識の定着をはかるとともに、放課後には、各科目の課題研究発表の予行演習や自習等に活用した。 ・ 年3回実施の学校運営協議会も上記設備・物品を活用し有意義な協議を行った。 ・ 床タイルカーペット貼りで、抵抗なく床に座れるという利点を活かし、ダミー人形を使用した救急法の講習に活用した。
成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ① 進路未決定率（H28年度9.7%）を7%以下にする。 ② 学校教育自己診断：「学習に関する」項目の生徒評価の肯定率（H28年度64.7%）を70%以上にする。 ③ ICT機器を有効に活用して授業ができる教員を70%以上にする。 ④ 資格取得者数（H28年度247件）を280件以上にする。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ① 進路未決定率（H29年度4.02%）を3.5%以下にする。⇒進路未決定率：0.9%（2名/219名）……………（◎） ② 学校教育自己診断：「学習に関する」項目の生徒評価（H29年度71.3%）を75%以上にする。⇒学校教育自己診断の「学習に関する」項目の生徒評価：72.7%……………（△） ③ ICT機器を有効に活用して授業ができる教員を80%以上にする。⇒ICT機器を有効に活用して授業ができる教員：80.7%（46名/57名）……………（○） ④ 資格取得者数（H29年度283件）を300件以上にする。⇒資格取得者数は、H30年度305件と目標を上回ったため、R1年度目標を「3年の資格取得者の割合（H30年度121名、53.1%）を5%増やし134名、58%以上にする。」と設定した。結果は今年度の資格取得数が96名、43.8%で目標に達成しなかった。……………（△） 但し、当該学年は、一方でボランティア、インターンシップ等の学外活動にも重きを置いており、資格取得と合わせると142名・68.0%になった。……………（○）
事業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業の評価指標として掲げた「希望進路実現率」および「四年制大学進学者数の増加」については、この事業に取り組んだ3年間を経て、就職一次合格率が、H29:85.0%、H30:89.2%、R1:84.3%、4年制大学合格者数が、H29:43人、H30:33人、R1:37人であった。就職一次合格率はH30に89.2%まで上昇し好成績であったため、R1は例年より難易度の高い人気企業に挑戦した。結果は84.2%に留まったが、最終的には100%の内定率となった。4年制大学合格者数はH29に43人と過去最高を記録した。ただH30は、文科省の大学定員厳格化の方針により大学入試が難化し、H30は33人に留まった。しかしR1は37人になり、H29を除き過去最高を記録した。 ・ 継続的・組織的なキャリア教育により、進路未決定率は減少した。

- ・ 学習に関する生徒評価については、今年度活用したパッケージ研修支援 I の中心的存在の教員や過去のパッケージ研修でノウハウを蓄積した教員等が組織的に校内研修を実施したことで、目標値の 75%に迫ることができた。
- ・ ICT 機器を有効に活用して授業ができる教員については、学力向上プロジェクトチームの教員の研究授業や ICT 機器の活用法のレクチャーなどで、目標値の 80%を上回った。
- ・ 資格取得については、R1 年度に設定した新たな目標で 3 年間の在学中に何らかの資格を持っている生徒を増やしていく。
- ・ TRY ルームは今後も、Wi-Fi 環境の整備（国の事業）をするとともにタブレット型端末を増やしていくことで、ICT 機器を有効に活用した授業や探究及び課題研究型の授業に活用していく。